

A case of aortic occlusion treated with EVT for the ECMO in a patient with VF

P-14

Soichiro Washimi

Mimihara General Hospital

50 代の男性、仕事中に突然倒れ救急搬送。当院搬送までに除細動を 4 回施行されたが VF 持続していた。ECPR の方針として V-A ECMO の導入を試みたが、大腿動脈からのワイヤー挿入に難渋。造影したところ大動脈閉塞が確認された。ECMO 導入は困難と判断し、先に CAG 施行。LAD#6 に culprit を確認。CAG した時点で LAD 末梢までわずかに血流が認められるようになり ROSC。LAD#6 に対して PCI の方針とし、バルーン拡張後にステント留置して TIMI3 の血流が得られた。しかし、PCI 後も再度 CPA となり ECMO 導入が必要と考えられた。大動脈閉塞の ante 側から 0.035wire にて左大腿動脈方向へ通過に成功。大腿動脈から挿入していた 6Fr シースへの rendezvous にも成功し、pull-through の状態とした。送血管挿入もできたが逆血不良であったため、7.0mm の NC balloon にて拡張させ逆血を確認。V-A ECMO 開始した。その後も血行動態の改善は得られず最終的には死亡退院となった。救命にはいたらなかつたが、大動脈分岐部閉塞を伴う VF 症例に対して、EVT 施行することで V-A ECMO 導入した症例を経験したので報告する。